

# 頑張れ九里!

No.17  
2003.3

九里学園高等学校部活動後援会報



## 部活動と人間教育



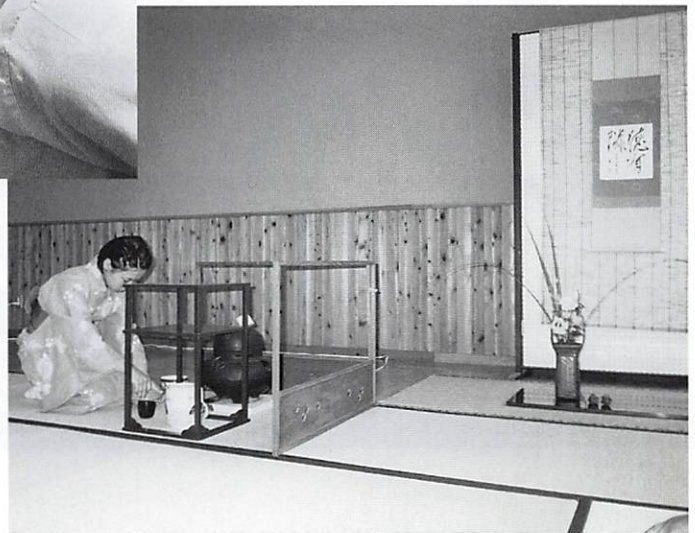
部活動後援会会長

須貝 昇

厳しい冬の寒さが遠のき、春はもうそこまでやってきています。昨今の景気はまだまだ寒い冬の真っ只中で猛吹雪の中、一寸先が見えない状況下を探りて前進しているようなものかと思えます。失業者数も年々増え続け、子供たちの就職に関しても大変厳しい状況のようです。何年か前までは「フリーター」という言葉自体一般化されてなかつたのですが、今では一職業分類として堂々と通る世の中になりました。本人の希望の有無にかかわらず景気の動向による面もあり、一概に判断できません。でも、学生時代の部活動と、社会人としての定職、勤労意欲とは違うとはいえ、共通する部分もあると思います。学生時代に履修科目以外の部活動に対して、一生懸命に取り組んだ子供たちは精神面で粘り強い人間、向上心のある人間に成長しているはずです。

今年もそのような九里生たちが各方面で活躍してくれました。伝統的な強さの陸上部、団結力の結実であるソフ

トボール部の活躍、体力と持久力も必須のバドミントン部、精神面での勝負である弓道部などは体育面で特に活躍でした。中でも高知国体夏季大会に出場し飛板飛込みで堂々八位に入賞した井沢亮君は特筆されます。文化部においても書道部の活躍を筆頭にストリングアンサンブル部、美術部、吹奏楽部などの各部、各人が着実に成果をあげており、今年も生徒たちの心身ともにした、日頃の練習の成果がいかんなく発揮された一年であったと思います。この子供たちが将来、今を振り返ったとき忘れがたい貴重な思い出として又、現在の自分に対しての良き土台になっていると確信する事でしょう。指導の先生方はじめとした保護者、後援者皆様にとりましてこれに勝る喜びはないと思います。今後とも生徒一人一人が思う存分学園生活をエンジョイできるよう、そして九里学園の部活動発展、充実の為、変わらぬご支援ご協力を心よりお願い申し上げます。



# 頑張れ！文化活動



学校長

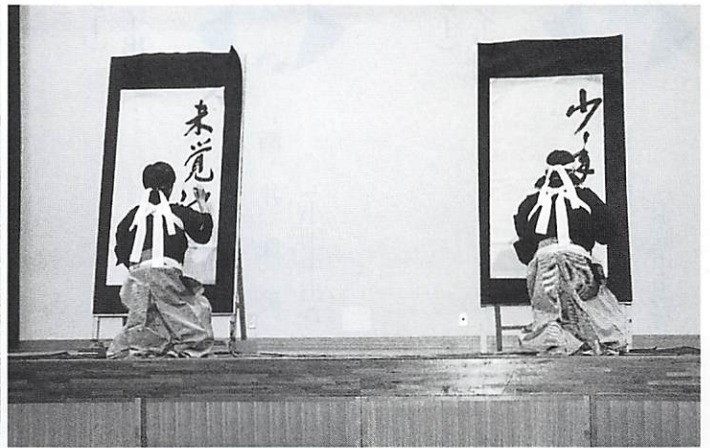
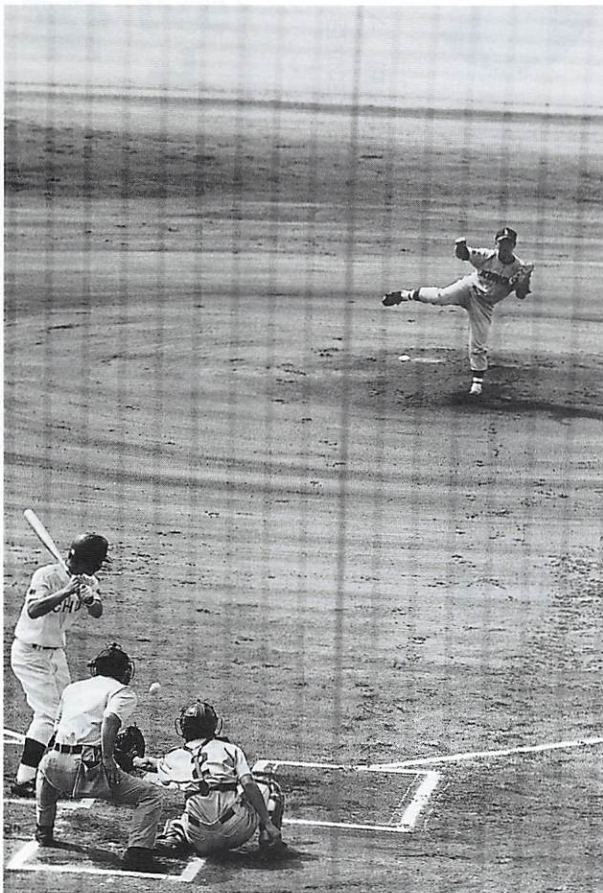
九里 廣志

今年の十月、山形県を会場に「紅花のくに さかそう文化」ときめく未来」をスローガンに『第十八回 国民文化祭・やまがた2003』が開催されます。これはいわば「文化の国体」で、全国から、さまざまな分野の文化活動を精力的に行っている人々が集う祭典です。今回の国民文化祭は、初の開催県内の全市町村が会場となる企画で、この置賜でも三市五町を会場に十三分野の祭典が繰り広げられるのです。私も力足らずながら、伝国の杜を会場に行われる「能楽の祭典」のお手伝いをする事となり、実行委員会の末席を汚している次第です。

私は、この仕事をお手伝いしながら、平成四年開催の『べにばな国体』を思い出しています。ちょうど十年前も前の事です。今の高校生はまだ小学生か幼稚園児。まだまだ実感の無い出来事だったでしょう。しかし、県民挙げでの他地域からいらつしやるお客さまのもてなしや、大会の成功に向けて、はたから見れば異常なほど、県民挙げ

て頑張ったものでした。今年度の「第五七回よさこい高知国体」で、「開催県総合優勝獲得」の伝統？には終止符が打たれましたが、その当時の山形県民は、総合優勝を是非でも獲得するのだとの思いで、必死の強化や準備を行ったものです。本校から選手として出場した陸上の土屋恵さん（百Mハードルと四百Mハードルに共に二位）や、卓球の高石里恵さん（団体戦五位）の活躍はもちろんですが、夏季国体開会式の式典集団演技や合唱、秋季国体種目開始式でのプラカード保持、競技補助員などのさまざまな分野で、生徒たちみんなが協力した大会だったのです。会場に応援にも駆けつけました。

今だけだけの人が、今秋開催される『国民文化祭』を意識しているでしょうか。国体時の盛り上がりとは違うのは、勝ち負けの評価が文化には少ないからでしょうか。だったらなおさらのこと、積極的に接し、応援・鑑賞してほしいものだと思います。文化活動は心を豊かにする活動であるからです。



# カップ 2002

## インターハイ・国体・全国大会出場選手

### 感動と勇気をありがとう！

#### 水泳部

(飛び込み)  
国体 八位 インターハイ 十三位



一年 井沢 亮  
(米沢四中出身)

#### 陸上競技部

(槍投げ・砲丸投げ)  
インターハイ、国体出場



三年 平 江理子  
(川西二中出身)

(三千M競歩・五千M競歩)  
インターハイ、国体出場



二年 中村 瑞穂  
(米沢七中出身)

(四百MH・四百Mリレー)  
インターハイ、国体出場



三年 山内 愛  
(米沢四中出身)

(四百Mリレー)  
インターハイ出場



三年 酒井 珠美  
(小国中出身)

(四百Mリレー)  
インターハイ出場



三年 横野 友紀  
(玉庭中出身)

(四百Mリレー)  
インターハイ出場



一年 鈴木 祐子  
(赤湯中出身)

#### テニス部

(シングルス・ダブルス)  
インターハイ、国体出場



二年 情野 朋美  
(米沢五中出身)

(ダブルス)  
インターハイ出場



一年 情野 歩美  
(米沢五中出身)

# クロースア

## バドミントン部

(シングルス)  
インターハイ、国体、  
ジュニアオリンピック出場



二年  
山口 美百子  
(米沢三中出身)

## 書道部

第二十六回全国高等学校総合文化祭出場  
吟詠剣詩舞部門文化連盟賞受賞



一年  
村上 由  
(米沢五中出身)



二年  
小浅 美沙子  
(高畠四中出身)



三年  
神田 沙織  
(米沢四中出身)

# 東北大会出場

## 自分を信じて・仲間を信じて

## 弓道部

(県新人大会個人優勝東北大会出場)



二年  
植松 伸治  
(米沢四中出身)

## 陸上競技部

### 女子

県新人大会百MH優勝 四百MH二位  
(百MH県・四百MH・四百MR・千六百MR)



二年  
甘粕 久美子  
(米沢一中出身)

(三千M)  
一年 島貫 誠子 (小国中出身)



(走幅跳・四百MR・千六百MR)

一年 太田 明子 (川西一中出身)



(砲丸投)

一年 山川 舞 (米沢三中出身)



(円盤投)

一年 滝口 祐子 (赤湯中出身)



(四百MR・千六百MR)

一年 河内 照美 (川西一中出身)



(三千M)

二年 沼澤 美和 (白鷹中出身)



(三千M競歩)

二年 大宮 祥子 (米沢三中出身)



# クロースアップ 2002

## 陸上競技部

男子

(二百M・四百MR・千六百MR)  
一年 渡部 誠 (米沢三中出身)



(二百M・四百MR・千六百MR)  
一年 高橋 恵太 (米沢三中出身)



(走幅跳・四百MR・千六百MR)  
一年 舟山 一輝 (小国中出身)



(四百MR・千六百MR)  
一年 遠藤 俊哉 (米沢三中出身)



(五千M競歩)  
二年 安藤 裕太 (米沢五中出身)



(砲丸投・円盤投)  
二年 加藤 正敏 (米沢三中出身)



## バドミントン部

東北高等学校バドミントン選手権大会

(ダブルス・選手宣誓)

三年 鹿間 幸恵 (米沢三中出身)



## 美術部

第二十六回山形県高等学校総合文化祭  
高校文化連盟賞および特選



二年 江口 達哉  
(長井南中出身)

\*平成十五年度全国高等学校総合文化祭の  
山形県代表に選ばれる

## 卓球部

東北高校総合体育大会  
(女子ダブルス)

三年 青木 朋恵 (川西一中出身)



三年 佐藤真由美 (川西一中出身)



(女子シングルス)

一年 荒井 直子 (綾瀬中出身)



## 書道部

第二十六回山形県高等学校総合文化祭

書道部門 文化連盟会長賞受賞

三年 渡部 知里 (米沢四中出身)



## 吹奏楽部

全日本吹奏楽コンクール県大会金賞受賞  
東北大会出場 銅賞受賞



## ソフトボール部

全国私立高等学校女子選抜ソフトボール大会  
山形県予選会 準優勝  
東北予選会出場

## 陸上競技部

全国高校女子駅伝競走大会県予選会 第三位

東北高校女子駅伝競走大会出場

- 一区 高橋真都香 (三年 米沢三中)
- 二区 沼澤 美和 (二年 白鷹東中)
- 三区 中村 瑞穂 (二年 米沢七中)
- 四区 鈴木 美樹 (三年 長井南中)
- 五区 高橋 恵 (一年 白鷹西中)

# 今年度の活動を振り返って

## 体育部

### 弓道部

#### 弓道部この一年

福崎 正史



最大の成果は男子が初めて地区予選を力で突破し、県新人大会に出場できたことである。さらに、この県新人大会では個人優勝(二年・植松伸治君)という、思いがけないタイトルも獲得できた。このことは男子創部四年目という短い期間で、県で通用するレベルまで到達したことを意味し、今後の試合でも自信を持って臨めるようになった。来年度、春の地区大会を今回同様実力で突破し、県大会進出、個人のみなら

ず団体で決勝に残れるよう、これを目標にして練習に励みたいものと思う。

一方、女子はここ二年ほど地区予選を突破できない状態にあるので、何とかこれを打破し、県大会出場を果たしていきたいものと思う。

課題は「部員をいかに確保できるか」というところにある。最近特に冬の寒さに耐え切れずリタイヤしてしまう新入生部員が多く、「冬」を意識した練習メニュー構築が必要だ。

### ハンドボール部

#### ハンドボール・スピリット

五島 訓二

苦しいときにも 頑張ろう

苦しい時こそ 励まそう

苦しい時こそ 希望を持とう

協力して 集団の力を知ろう

毎日の練習を始める時に、みんなで交わすエールです。試合会場の横断幕には、「ダツト走れ」と書かれています。これは京都大仙院の尾関宗園禅僧より頂いた「スクツと立ってダツと走れ」という禅語です。学校教育の中でクラブ活動は、如何にあるべきかと毎日苦悶しております。

本年は宮城県の塩釜女子高校や新潟県の巻高校とも交流を持ちました。お互いに往き来しての練習試合は勿論のこと、合宿等

を通して高校生としての共通な話が弾み、お互いの絆を深め、高校生としてのあるべき姿が模索できたようです。

部員二十名、一致団結をモットーに、真面目な性格と健全なる精神錬磨・身体育成に精進致しました。

### 水泳・体操

#### 一年間を振り返って

我妻 孝

学校教育という大きな組織の中で、とりわけニュースになるのが部活動である。特に体育系の部活動においては勝敗の結果、だけではなく、部としての団結力や精神力も評価される。本校では、水泳や体操は独立した部という組織はなく、それぞれ愛好会という存在で、数名の生徒が日々の練習に励んでいる。もちろん、設備や器具がないので他校や民間の施設を利用しての練習である。この一年間の生徒の活躍で一際名を広めたのが、水泳部門での井澤君の活躍でした。井澤君は飛び込みという競技人口の少ない種目で、国体で八位入賞という素晴らしい成果を収めました。競泳・体操競技ともども今後の奮闘を期待します。

### 卓球部

#### 一年間を振り返って

大滝 勲

平成十四年は卓球部にとって、転換期と



いえる年となった。理由は高校卓球会の名門である東京の淑徳学園高校より廣田芳雄先生をお招きし、指導体制を整え男子卓球部を創設したからである。

男子部創設ということで、活動場所である小体育館には男子の強打で女子が怪我をしない高さに二mのフェンスを使用して活動している。運良く部員数も団体戦に出場できる数がそろい、春季大会より出場し、来年は県大会に出場することもできそうである。

女子はインターハイを目指し部員一丸となり努力したが、選手個々に様々なアクシデントもあり夢を現実にするのができなかった。残念ではあるが県大会では常に三位以上の成績を残したのでスタッフ一同(大滝・廣田・荒井コーチ)一致協力し、ぜひ次のチャンスを狙いたい。

### バレーボール部

#### 一年を振り返って

奥山 光彦

技術面では、今年度は、前年のレギュラーメンバーの主力が四人残りチームが実に安定していた。県のトップクラスのチームと試合を行ってもさほど差はなく各県大会ではベスト16、私学大会ではなんと東北大会にかけての三位決定戦まで進出して、フルセットにて羽黒に負けたもののある程度の結果というものを残せたように思える。

私は今年度春にオーストラリア研修、夏は情報の研修ということで、大事な時期に顧問不在になるクラブ活動が多かったが、一人一人の試合に臨む気持が高く、決してマインスマンだけではなかった。しかし反面、技術や試合結果にこだわり、また今までより上の結果をだす生徒達に対し、賞賛の気持が優先し、顧問の私自身甘えが生じ、部活動が一番大事と思える人間形成を怠ったかと思える。これらが反省点である。これからこれら両方とも兼ねそろえたクラブとして行っていきます。卒業していく三年生には、なぜ私達は三年間部活を行い、



試合の結果だけでなく、何を学び、それを今後の人生においてどう生かしていくかを考え果立ってほしいと願っております。

### サッカー部

#### 今年度一年を振り返って

佐藤 秀人

今年度のサッカー部の総括にあたり欠かせないものは、全国高等学校サッカー選手権大会・山形県大会ベスト8であろう。創部四年目にしてやっと結果らしいものが出せたような気がする。春の合宿でサッカーの難しさ・目標に向かってチームが一丸となることのカッコ良さを知り、夏の静岡遠征で自分達の実力の無さを痛感しサッカーが嫌いになり、サンマリーナで壊れ、新人戦を経てようやく、サッカーしかとりえない監督に似てきた。そして今回の結果が生まれた。ここいつらカッコイイ」ベスト8を告げるホイッスルを聞いた瞬間、素直にこう思った。

しかし、ミーティングでこう話した。「皆の今回の結果は、九里学園サッカー部が存在したからこそ成し得たことだ。サッカー部が存在しなかつたら今回の結果はあり得ない。第一期生達に感謝しよう。」第一期生は今でも長期休暇の時期には部活に顔を出してくれる。私は彼らに頭が上がりない籍先生もそうである私はそんな彼等を誇りに思う。そして、その彼等を尊敬し、九里学園サッカー部で頑張っている今のメンバー全員を誇りに思う。ありがとう。

先日行われた米沢地区高等学校フットサル大会にて優勝しちゃいました。強くなったもんだ  
なんちゃって



### ソフトボール部

#### 一年間を振り返って

山本美智子

ソフトボール部の一年間を振り返ってみると、「チームワーク」という言葉が思い浮かびます。春に新しいメンバーである一年生が入部し、十六人で活動してきました。一年から三年までいつも仲がよく、お互いに言うべきことはきちんと言い合える、とてもいい関係を築いていました。後輩の面倒見もよく、信頼関係がしっかりとできていたと思います。三年が引退するなどして今は十人ぎりぎりですが、その

分「チームワーク」の良さにはさらに磨きがかかったように思います。そのことが、少ない人数ながらも試合でいい結果を残してきたことに繋がっていると思います。来年度も新しい戦力を迎え、まずは目標の県大会優勝めざして勇往邁進していきたいと思えます。

### 野球部

#### 来年へのステップアップ

高橋左和明・高橋 元樹

創部三年目をむかえ、実力的にも上位を狙えるチームに育ってきました。選手たちも甲子園出場という言葉や口と行動に移すようになり、ひたむきに練習に没頭する日々をすごしてきました。三回目となる今回の夏の甲子園(全国高校野球選手権大会)の県予選では、一、二回戦を勝ちベスト8をかけた山形中央との激戦となりましたが、リードして向えた終盤にミスから失点を重ね、終わってみれば八対四の敗退でした。レギュラーの大半が二年生という若いチームということもあり精神的にもろさを露呈したようなゲームでもありました。

来年度はこの反省を活かし、さらに鍛錬を重ね冬の雪のハンデを物ともせず力強く、そして自信に満ちた明るいチームをつくりたいと思います。高校野球は監督、選手そして応援してくださる皆さんが一体となった時、信じられない力が生まれるといわれます。どうか今後とも温かく力強いご声援をお願いします。



### バドミントン部

#### 成せばなる

高木ユキエ

高校生の一番メインな大会は、インターハイ。その大会に向けて地道に練習してきた山口。山口と共に上を目指した仲間達。二つの願いと努力が叶って見事インターハイに行く。保護者会の皆様から作っていた部旗には「成せばなる」と書いてある。大会の大小にかかわらず試合後は、やはり成せば成ると反省させられる。

バドミントンは派手さはないが運動量はボクシング級。奥は深くやればやる程頭を悩ます。またそこがバドミントンの面白い所。

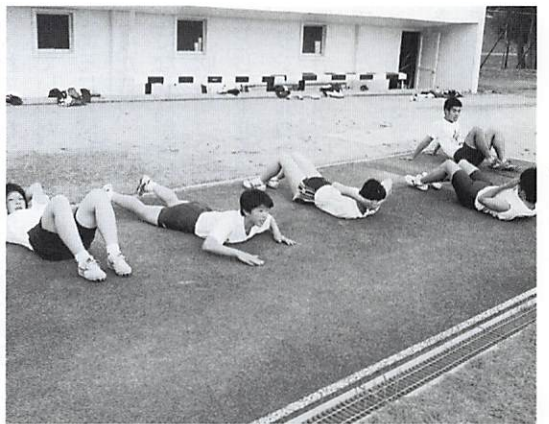
バドミントンの面白さがわかってきた部員達は、これからも今の自分より少しでも上を目指しレベルアップをしていく。成せばなるを合言葉に。

### 陸上競技部

#### 自己向上を目指して

本田 米子

平成十四年度は、県総合優勝三連覇。インターハイにも、四〇〇MH、槍投、砲丸投、三〇〇〇M競歩、四〇〇MRの五種目に出場し、二十六年連続出場を果たし、又高知県で開催された秋季国体にも三名の出場者を出し、入賞こそできませんでしたが、九里陸上をアピールする事が出来ました。



### テニス部

#### 一年間を振り返って

小倉 勝利

しかし、目標でもある京都駅伝出場の予選会では、精一杯戦って県三位にとどまり、選手共々悔しさが残る場面もありましたが、その後の東北高校駅伝大会や、一人一人の向上度を考えると、賞賛できる立派な戦いぶりです。部の目標もほぼ達成できたと思っています。

平成十五年度は、女子のみならず、男子もようやく三学年が揃う年でもありますので、心身の自己向上に努力させ、人間性を育て、県総合も意識しながら全国に通用する選手に育てていきたいと思えます。

平成十四年度はテニス部発足十五年目の年である。平成四年のべにばな国体には素

人の選手を強化して候補選手まではたどりついていたが出場にはいたらなかった。平成七年から東北大会の常連校にはなったがテニス部が中学校になかったため一日平均五時間という猛練習をせざるを得なかったのがある。平成九年から米沢市のテニス協会の毎週土曜日に開催されるスポ少に高校生を派遣し小学生の練習相手にした。昨年度スポ少出身の新生が加入し、本年度創部十五年目にしてインターハイ、国体の出場となった。今年度一年間の強化は凄まじいもので、年間四十日の山形での強化練習会・七十日を越える遠征や大会など学校には大変迷惑をおかけた。選手自身も米沢市や山形県を背負ったプレッシャーの中大変ががんばつてくれ、インターハイでは徳島国体では佐賀の選手に圧勝できた。来年度は今年以上の結果が得られるよう更なる努力をしていきたい。

### 剣道部

#### 今年度を振り返って

吉田 淳



昨年度の新人戦から女子三名、男子二名



### 女子バスケットボール部

#### 女子バスケット部の一年

吉田貴美子

での活動であったが、春に新生者が多数入部してくれたため、念願であった男女共に五名で団体戦を戦うことができた。特に男子チームにおいては初の団体戦での県大会出場となった。しかし、試合に五人で出場できたことに満足してしまい、十分な成果を上げることが出来なかった。その反省を元に今年度からコーチにお願いした千葉コーチの厳しい指導のもと、夏の合宿、遠征を通じて着実に力を付けてきた。残念ながら、三年生がぬけ新人チームになると男女とも四名で団体戦を戦うことになった。一名足りないことは、大きなハンデであるが、その分互いに励まし合って春の遠征やレベルアップした練習を積んで来年度は上位入賞を果たしたい。

平成十四年度の女子バスケットボール部は、三年生が引退してからは空中分解スレスレという大変な事態になりました。夏休みを過ぎた頃から退部者が続出。しかし、そうだったのは全てに原因があったと思

ます。監督である私の指導方針の迷い。これが部員達がまともになかった原因と想っています。九里女子バスケットボールチームには、仲間と力を合わせる事が欠けていました。技術よりも人間性を磨くことを第一に指導し、チーム全員が心をひとつに戦っていくそんなチームを今後目指していきます。春の公式戦まで今以上のチームの総合力を高めて、現部員六名を中心に頑張りますので応援よろしくお願い致します。



### 男子バスケットボール部

#### 今年度を振り返って

富樫 宏之

今年度の我々男子バスケットボール部の戦績は、県高校総体一回戦敗退、地区新人戦優勝、県新人戦初戦敗退であった。県の大会では、なかなか思うように力を発揮できず悔しい思いをした。この悔しい思いは生徒達も同じく、次の大会に向けてのエネルギーとして日々の練習にうちこんでいる。しかし、本当に技術や体力が足らずこ一番で力を発揮できないのであるのか？よく言われる「心・技・体」。その中の心

の部分の弱さがまだまだ我々のチームにはあるように思う。心・技・体をバランス良く強化し、それぞれがただの点ではなく、"線"で結びあい支え合える真のチームを目指したい。応援よろしくお願い致します。

### 文化部

#### 吹奏楽部

#### 吹奏楽部のこの一年間を振り返って..

根津 利栄

今年から九里学園に勤務することとなり、それと同時に吹奏楽部を担当することとなった。最初の不安は、部員達が私をどう迎え入れてくれるだろうという思いだった。しかし、部員達は非常に暖かく私を迎え入れてくれ、その不安も日を経たずして消えていった。また、井澤先生も私が新人であるにも関わらず、全面的に指導を任せてくださり、生徒達もその指導に対して必死になりながら付いてきてくれた。その結果、吹奏楽コンクール県大会で金賞、県代表として東北大会に出場、冬の大会ではアンサンブルコンテストでは地区代表として県大会出場という数々の名誉を得ることができた。

これからも様々な問題を抱えながらではあるが、九里吹奏楽部の目指す音楽を奏でられるように、生徒達と共に頑張りたい。

### JRC部

#### この一年を振り返り

長谷川和美

この一年間を振り返ると、部員達は、多くの方々との出会いがあり、そのふれあいの中から、様々な事を得ることができたと思います。

常時活動、校外活動ともに実践活動していく上で、常に「気づき・考え・実行する」という意識を大切にしてきました。

年間を通して、様々なボランティア活動に参加させていただきました。地域の方々の協力や施設の方々との交流など、個々の活動から集団活動におよびましたが、部員一人一人が自分自身を向上させることができたのではないかと思います。

また、活動するにあたって、継続することが大切であり、活動の反省をもとにし、新しい活動を組み込んでいくことが活性化につながると思います。今後も生徒が自ら、自分を取り巻く日常生活の中で息づく活動をしていけるようにしていきたいと思っています。

### 英語部

#### 英語部の一年

今井 由可

今年度の英語部は、一年生が大勢加わって、活動に幅が持った一年だったと思います。通常の活動は、デービス先生を中心に、

### 書道部

#### 筆と剣を持って書いて舞ったこの一年

須藤喜美子

映画を見たり、ゲームをしたりという活動でした。映画については、この一年でかなりの本数を見ました。始めのほうを字幕なしで見てもたまりましたが、なかなか聞き取るのに苦労した人が多いようです。文化祭では、オーストラリアのこまごまとしたものを飾るなどして展示をしました。ご父兄の方々が、足をとめてゆつくりと見てくださったことが、我々には大変嬉しいことでした。クリスマス時期には伝統的なクリスマス料理をみんなで作り、プレゼント交換をするなどして楽しく過ごしました。七面鳥は、我々日本人にはあまりなじみのない食材ですが、さっぱりとしていて食べやすいといった新たな発見も出来たりして、興味深いパーティになったと思います。デービス先生のおかげで、充実した一年となりました。

筆と剣を持って書いて舞ったこの一年——これが、平成十四年度書道部活動を総括する言葉となった。部員九名と少ない。その上、今年は書道吟に加えて、剣舞も舞うことになったから大変。書道吟を書く者、剣舞を舞う者、そして県高総文祭等への出品作品を書く者と少ない人数を更に分散させての活動となった。また、週一度の米沢工業高校に向いての合同練習は多忙を極

めた。しかし、生徒達はよく動いた。よく書いた。作品に仕上げた点数は例年を上回る。

県高総文祭では三年渡部知里が文化連盟賞を受賞。八月横須賀市で行れた全国高総文祭では、三年神田沙織、二年小浅美沙子、一年村上由が米沢工業生と県選抜で吟詠剣詩舞部門に出場。初舞台ながら、黒紋付きに袴、白鉢巻きの装いで凛々しく堂々と舞い県代表としての役割を充分に果たしてくれた。その後、一般の剣詩道大会や塩井地区文化祭に招待され、書道吟と剣舞を披露し、大きな喝采をあびている。

三年部長樋口愛もよくがんばった。前年度の全国大会出場の際を生かし、陰になり日向になり全国大会出場組を支えてくれた。三年生には顧問として心から誉めてあげたい。後輩達もあなた達の姿勢から多くのものを学んだと信ずるから。

## 社会部

### 一年を振り返って

遠藤 英

社会部は、数年来継続して取り組んできた「城下町米沢」を中心テーマとした研究をして来ました。昨年度の松岬城本丸御三階の作図を基にしたより詳細な作図をし、模型作りを進め、割り箸・マッチ棒を加工しての骨組みが完成に近づいています。また大工が作成した松岬城の二〇〇分の一の図面を解説した図画の作成も進め、約半分出来たところで九里祭で展示しました。また、

福祉をテーマに学習を進めている班もあり、法制度の学習やボランティア活動などに取り組んでいます。その他、仙台研修、九里学園教育研究所主催の長井めぐりへの参加など、諸々の活動も行なってきました。現部員は二年生ですが、新しい発展を目指していきたいと思えます。

## イラストアニメ愛好会

### 「まんが甲子園」に向けて

大木 善子

今年度、イラストアニメ愛好会は三年生が一名、二年生が六名、一年生が五名合わせて十二名という少ないメンバーで活動してきました。活動は週四回、決められたテーマでそれぞれイラストを描き画力を高める練習や、長い休みにはカラーイラストや四コマまんがを書いたりしています。イラストアニメ愛好会の最大の目標は、まんが日本一の座を競う『まんが甲子園』に出場する事です。そのためには、一人ひとりの画力を高めることは勿論ですが、部員全員の知性を出しあつてテーマに沿ったユニークなまんがにまとめる練習をしていく必要があります。その点が今現在欠けています。一人ひとりの画力は少しずつアップしているものの、学校の活動だけでは自分達の力がわからないので、今後は外部のイラストコンテストや高校生まんがグランプリ等にどんどん作品を応募して、自分達の力を確かめていきたいと思っています。また、生徒会の行事にあわせてのPRポスター作り

等にも協力していきたいと思っています。

## 美術部

### 最高のアートを目指せ

長岡 直浩

今年度は男子が三名に増えたことで、制作の様子や作品にも活発で逞しい一面が見られるようになったと感じております。学校での普段の活動の他に、地区の美術部員が九〇人も集まる「実技研修会」に参加し、三日間で作品を完成させましたし、真夏の「地区高校美術展」・「九里祭」には全員出品はもちろんの事、展示も部員の協力で準備しました。作品も展覧会に出すには、大きなサイズに描かないとアピールしませんが、完成まで一ヶ月以上の制作期間を



## 文芸部

### 文芸部の一年

上村 英俊

文芸部員はほとんどが図書委員をしている。そのため活動もスケジュールをやりくりしながらのものとなってしまうが、今年は何とか両立できたようだ。

機関紙「PROGRESS」は、部員の創作した「小説」や「詩」を集めたものだが、三回発行することができた。プロの作品にはまだまだ及ばないものの、創作意欲を持ち続けることができたことを評価してほしい。今年には東北地方の民話を集め、九里祭で展示をした。また、遠野に取材し、「語り」を演じるなど、外に向かつてさまざま

発信した一年であった。

### 新聞部

#### 新聞部の一年

上村 英俊

今年度は県から派遣され、全国高総合文化祭の取材を担当したこと。また高文連新聞の編集をしたことが特筆される。同年代の高校生の演じる開会式のレベルの高さに圧倒されながらも、参加者はそれぞれ刺激を受けてきたようだ。また、大舞台に立つことなく、大会スタッフはもちろん、言葉の通じない外国からの参加者にまで、インタビューに出かけることができるようになった。

コンクールにおいては、全国高校新聞コンクールに「健闘賞」。県高校新聞コンクールで「優良賞」を受賞。三年連続となる。生徒会総会において「学校新聞」に対する質問や要望が出るなど、案外生徒たちにも関心を持ってもらえているのは部員ともども喜んでいる。学園や生徒の動きを記録するだけでなく、学内の世論を作るジャーナリズムの活動を目指し来年度、さらにレベルアップしていきたい。

### 生活科学部

#### 一年を振り返って

刈田 睦

今年度は一年生二名、二年生十二名、三

年生三名で活動して来ました。活動日は火曜、木曜、金曜日の三日間で、前半はパッチワーク、ヘキサゴンのパターンを使って、一人一人好みの形に仕上げ、手さげバックや、クッション、テーブルセンター等を作りました。又、毎年、夏休みには校外での研修をやっていますが、今年度は、学校の近所で、刺し子教室を開いている、遠藤きよ子先生のところへ一日刺し子の実習をして基本的なことを習ってきました。テーブルメーカーを使って小座布団を製作したり、今はマフラー編みをやっています。時々、調理室で食物の先生から郷土料理やケーキの作り方等も教えていただき、授業とは異なる楽しい時間を過ごしています。一年生の少ないのが悩みです。来年度は新人の入部を期待したいです。

### ジャズダンス

#### 一年を振り返って

宮下 説子

ジャズダンスの大きな発表の場は、九里祭と三年生を送る会です。今年度もこの二つの発表の場を目標に日々活動してきました。ステージは華やかですが、毎日の練習は見た目よりも地味であり、本人の努力と仲間との協力が重要です。春は入部希望者が多いもの、実際に身体を動かしてみると思うように踊れず、夏頃は部員数も減ってしまうというのが実態です。しかし、残った部員は本当にダンスが好きで、夏の練習では体重が減ってしまうほど頑張りました。

た。特に三年生の成長には驚きました。技術の向上はもちろん、表現力が豊かになり身体もよく動き、とても良い表情で踊ることができるようになりました。三年生が卒業し部員も少なくなります。日々の活動を大切にし技術向上に努めたいと思います。



### PC愛好会

#### 一年を振り返って

熊澤 広二

PC愛好会は、発足から今年で三年目を迎えた。発足時のメンバーが最上級生になり、自分たちの活動を後輩に引き継ぐべく、活動の柱や会としてのコンセンサスを固めていった。

活動の柱を(1)学習活動(2)創作活動(3)大

会参加やコンテスト等への出品の三つとした。学習活動は、表計算やプログラム言語CG、Webページ作成と様々な分野を協力し合って学習した。その中で意欲的に検定や資格取得をめざす生徒もいた。創作活動は、主に個人やグループでWebページ作成などを行った。外部からの依頼で活動した場面もあった。大会には二年続けてIT選手権東北予選に出場した。情報処理を専門に学ぶ他校の生徒達との競技で上位入賞はならなかったが、いい刺激を受けたものと思う。

秋からは一、二年生だけとなり、検定をめざした学習が活動の中心となっている。どんな活動でも継続の重要性和その活動を好きになることが大事であり、この事をしっかり理解しこれからも活動に励んでもらいたい。

### ストリング・アンサンブル

#### 全国高校総合文化祭に向けて

小林 圭一

音楽の先生の後を受けて二年目。バイオリンの阿部先生(コーチ)を始め、高橋氏(チエロ)や白井氏(ピオラ)の指導を受けて、大曲ビゼーの「アルルの女」組曲に取り組みました。米沢東・酒田中央・新庄北・山形城北との合同演奏ではありましたが、八月のプレ国民文化祭(酒田)を皮切りに、十月、県高校総合文化祭(鶴岡)、十一月に県管弦楽発表会(山形)と多忙な活動でした。その間、九月の学園祭には、

受験で忙しかった三年生との合同ステージができたことも一、二年生にとっては励みになりました。部員数も十四名と少なく、演奏技術も未熟ではありますが、今年（二〇〇三年）、富山県で開催される全国高校総合文化祭に出演するメンバーにも選ばれました。お知り合いになった専門家にお願いして楽器のメンテナンスもしていただきました。四月にたくさんの新入部員を迎えて活動の充実を目指したいと思います。



**演劇部**

**今年は男子生徒の存在感**

鈴木 淳子

現在の演劇部員数、一年生十二名、二年生一名。引退した三年生は十一名が活動しており、そのまへの三年生は一名だったから、この数年演劇部員は、二年に一度、上級生が大勢の下級生を引っ張らなければならぬ活動を繰り返している。同じ学年の生徒

が自分だけというのはずいぶん心細いだろうし、大変なことも多いと思うが、自分のカラーをいかしながら、よく、がんばってくれている。さて、今年度の活動は、六月の定期公演、九月の地区大会、二月の三年生を送る会の三回公演を中心とし、それぞれ、「アクアリウム」「ゴジラ」「パレンタイン撲滅運動隊」を上演した。男子が入学するようになって四年目の今年、男子生徒の存在感が出てきて、彼らを中心にすえられる演劇ができるようになり、演劇の幅が広がったのが、なんと言っても今年の特徴かと思う。さあ、もうすぐ四月。新入生がやってくる。一人一人の力を生かして、協力し合う演劇部を作りたいと思う。



**茶道部**

**茶道部、この一年を振り返って**

町田 悦子

茶道部は今年度、創部以来初めて男子が

入部することになった。茶道は「女子」と思っていた人々には、男子が入部したことはきつと驚きだったにちがいない。考えてみれば、茶の大成者千利休も男だから、何の不思議もないのだが……。

こうして、茶道部女子十六名、男子一名の活動がスタートした。場所は洗心亭、畳の部屋は戸をすべて開放し、いつもの通りの練習が週三回行われる。元気のいい三年生、部長の玉虫さんの大きくはきはきした指示の中、約二時間の活動。このような毎回の繰り返し、茶道お点前習得の基本だ。これがあつて、九里祭で呈茶席を設けることができるし、外部でのお茶会への参加やお手伝いも体験して、自信をつけていくことができるものと思っている。

さて、来年度はちよつぱり静かな芯の強い二年生が、茶道部の中心となって頑張ってくれるものと大いに期待している。

**音楽部**

**音楽部の一年を振り返って**

定免 文

九里学園高等学校音楽部とはじめて出会ったのは、二〇〇二年四月。それから約一年経とうとしている今、改めて活動内容を振り返ってみたいと思います。

三年生、一年生の部員から成る私達が最初に出場したのは、置賜地区高等学校合唱祭（六月、伝国の杜）でした。置賜地区は合唱の盛んな地であることが分かりました。

続いてNHK全国学校音楽コンクール山形県大会（九月、山形テルサ、テルサホール）に向けた練習や合宿を始めました。入ったばかりの部員には、難解な曲を表現できるようなるまでの課程ははかかなり辛かったのではないと思いますが、本番ではできる限りの合唱ができたと考えています。

この他に、いくつかお声がけいただいた出演したり、校内行事の度に参加してきました。現在の部員達にはこれから部活動の中心となって活躍し、初年度よりも多くのステージで歌声を響かせてもらいたいと期待しています。

**ワープロ部**

**一年を振り返って**

佐藤 由美

一年間を通して、意欲に充ちた生徒達に恵まれて、少ない部員数ではありますが、楽しく活動が続けることができました。

活動内容は、年に数回行われる検定に挑戦して、より上級を目指すこと、春と秋に行われる県のワープロ大会に出場するために練習することです。春の大会では、入賞することはできなかったものの、成績はかなりのところまで伸ばせることが出来たと思います。

また、それぞれ自分の目標とする級を取ることが出来ました。毎日の練習は、地味で根気がいるので続けることは容易ではないのですが、生徒の皆さんは大変良く頑張ったと思っています。

# 新人戦後の部活動(運動部・文化部)の結果報告

## 運動部

### サッカー部

米沢地区高等学校

フットサル大会

優勝

対 米沢商業 (7-3)

対 米沢東 (7-2)

対 米沢中央 (5-4)

対 南陽高校 (2-2・PK 8-7)

出場メンバー

落合 圭祐 (2年米沢四)

江畑 智也 (2年米沢四)

安部 駿佑 (2年南原)

赤木 良祐 (2年高島四)

鈴木 翔太 (2年米沢二)

本間 和仁 (2年米沢二)

新野 智広 (1年米沢五)

伊藤 陽介 (1年米沢二)

桑原 淳志 (1年米沢二)

山口 恒介 (1年米沢三)

高橋 誠 (1年沖郷)

甘粕 勇介 (1年米沢六)

滝口 怜 (1年米沢二)

宮下 将徳 (1年南原)

安部 翼 (1年南原)

荒井 友一 (1年米沢四)

### バドミントン部

全国高校選抜大会東北予選会

女子シングルス

山口美百子 (2年米沢三)

第三十二回置賜バドミントン

選手権大会

男子シングルス

3部 第2位 嶋貫 拓也 (1年長井南)

出場 斉藤 貴久 (1年米沢四)

男子ダブルス

3部 出場 嶋貫 拓也 (1年長井南)

3部 出場 菊地 勝 (1年長井南)

女子シングルス

1部 出場 四釜恵美子 (2年宮内)

2部 出場 栗原のぞみ (1年米沢六)

2部 出場 登坂 愛 (1年米沢三)

3部 出場 野澤 有希 (2年米沢七)

3部 出場 鈴木 麻衣 (1年米沢三)

3部 出場 佐藤 貴英 (1年米沢三)

3部 出場 官 真澄 (1年米沢三)

女子ダブルス

1部 優勝 山口美百子 (2年米沢三)

1部 優勝 青木 久美 (2年長井南)

2部 出場 野澤 有希 (2年米沢七)

2部 出場 栗原のぞみ (1年米沢六)

3部 出場

赤木 由美 (2年米沢一)

高橋 優子 (2年宮内)

官 真澄 (1年米沢三)

佐藤 貴英 (1年米沢三)

鈴木 麻衣 (1年米沢三)

青木 泉 (1年米沢五)

### 男子バスケットボール部

置賜地区冬季リーグ

1部リーグ 準優勝

対 興譲館 (95-90)

対 長井高校 (107-75)

対 米沢中央 (83-99)

出場メンバー

野村 俊輔 (2年米沢七)

加藤 真和 (2年米沢三)

星 竜二 (2年米沢六)

安部 雄基 (2年沖郷)

佐藤 健二 (2年米沢二)

我妻 徹朗 (2年米沢三)

中条 直樹 (1年沖郷)

石澤 伸晃 (1年米沢三)

### 女子バスケットボール部

置賜地区冬季リーグ

2部 優勝 (総合4位)

対 興譲館 (80-32)

対 米沢東 (90-35)

入替戦 対 南陽高校 (57-72)

出場メンバー

竹田絵里奈 (2年沖郷)

我妻 美幸 (2年高島四)

江口 あゆみ (2年吉野)

片平 有紀 (1年沖郷)

三瓶麻奈美 (1年米沢四)

赤井橋美咲 (1年米沢五)

### 卓球部

置賜地区新人大会

女子団体 第1位

決勝 九里 3-0 米沢東

出場メンバー

荒井 直子 (2年神奈川綾瀬)

遠藤 夢子 (1年長井南)

伊丹るりか (1年米沢三)

房間 亜衣 (1年南原)

佐藤 唯 (1年川西一)

女子シングルス

1位 荒井直子 (2年神奈川綾瀬)

2位 遠藤夢子 (1年長井南)

ベスト8 伊丹るりか (1年米沢三)

山形県新人大会

女子団体 第3位

準々決勝 九里 3-1 鶴岡東

準決勝 九里 0-3 山形城北

出場メンバー

- 荒井 直子(2年神奈川綾瀬)
- 遠藤 夢子(1年長井南)
- 伊丹るりか(1年米沢三)
- 房間 亜衣(1年南原)
- 佐藤 唯(1年川西一)

女子シングルス

- 3位 荒井直子(2年神奈川綾瀬)

置賜地区高体連冬季リーグ戦

男子団体 2部 2位(総合7位)

- 対 高島高校(3-0)
- 対 南陽高校(1-3)
- 対 米沢東(3-0)
- 対 置賜農業(3-1)

出場メンバー

- 伊藤 友也(1年米沢三)
- 渡部 智貴(1年長井南)
- 桑原 賢太(1年米沢二)
- 齋藤 健太(1年米沢四)
- 佐藤 和也(1年米沢三)
- 女子団体 1部 1位(総合1位)
- 対 置賜農業(3-0)
- 対 米沢東(3-0)
- 対 興譲館(3-1)

出場メンバー

- 荒井 直子(2年神奈川綾瀬)
- 遠藤 夢子(1年長井南)
- 伊丹るりか(1年米沢三)
- 房間 亜衣(1年南原)
- 佐藤 唯(1年川西一)

テニス部

第十回東北春季ジュニア

テニス選手権大会山形県予選

- 十八歳以下 女子シングルス
- 優勝 情野 朋美(2年米沢五)
- 十六歳以下 女子シングルス
- 第2位 情野 歩美(1年米沢五)

平成十四年度山形県室内

ダブルステニス選手権大会

- 十八歳以下 女子ダブルス
- 優勝 情野朋美(2年米沢五)
- 情野歩美(1年米沢五)

文化部

新聞部

全国高等学校新聞コンクール

健闘賞

山形県高等学校新聞コンクール

優良賞

- 縮 佳那子(1年米沢二)
- 安部 奈緒美(2年沖郷)
- 嵐田 智美(2年米沢一)
- 後藤 美由紀(2年米沢三)
- 佐藤 広子(2年高島三)
- 渡部 藍(2年中津川)

吹奏楽部

全日本アンサンブル

コンテスト置賜地区大会

フルート三重奏：銅賞

- 安部 年恵(2年米沢七)
- 菊地 渚(1年南原)
- 高橋 梨奈(1年米沢五)
- クラリネット四重奏：銀賞
- 行方 美保(3年米沢一)
- 矢木 晴花(1年米沢一)
- 後藤 さやか(1年米沢四)
- 松屋 琴女(1年米沢四)

金管五重奏：金賞(地区代表)

- 工藤 智未(3年米沢一)
- 後藤 美由紀(2年米沢三)
- 渡部 美穂(2年飯豊)
- 石原 温子(1年米沢六)
- 花等 瞳(1年米沢五)

全日本アンサンブル

コンテスト山形県大会

金管五重奏：銅賞

- 工藤 智未(3年米沢一)
- 後藤 美由紀(2年米沢三)
- 渡部 美穂(2年飯豊)
- 石原 温子(1年米沢六)
- 花等 瞳(1年米沢五)



